

令和4年度 第3回 中ノ町小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和4年11月1日（火） 10時00分から11時30分まで
- 2 開催場所 中ノ町小学校 会議室1
- 3 出席委員 堀内 秀哲、渡邊 章好、齋藤 誠、瀧 幸仁、佐藤 公治、鈴木 景子、
岡安 智代、木下健太郎、猿田 彩
- 4 オブザーバー 西澤 幸次郎（天竜協働センター長）
- 5 学 校 飯島美智子（校長）、泉澤 優光（教頭）、横山 和美（CS担当教員）
飛永百合子（CSディレクター）
- 6 教育委員会 堀田 洋一（教育総務課）
- 7 傍 聴 者 なし
- 8 協議事項
（1）現状、課題の共有
（2）ボランティア活動について
- 9 会議録作成者 CSディレクター 飛永百合子
- 10 会議記録

司会の教頭から、委員9人全員の出席があり、会議が成立している旨の報告があった。議長には、齋藤会長より立候補があり、全員これを承認した。

（1）現状、課題の共有

議長の指示により校長より、前回会議以降の学校の様子と、前回学校の現状と課題を委員が書き込んだSWOT分析に基づいて説明があった。子供の主体的な活動「いきいきプロジェクト」について、後から子供が発表するとのことであった。

各委員から以下のような意見があった。

- ・子供食堂での雰囲気もよい。（堀内委員）
- ・PTAも地域も温かいが、コロナの3年間でいろいろ途絶えてしまうのが心配。参加してくれるお母さんが少ない。（鈴木委員）
- ・コロナで、子供が直接会ったり家に遊びに行ったりしにくくなった。子供たちの距離感があるので、相談とかできるのか心配。（岡安委員）
- ・SWOT分析には「切磋琢磨」と書いたが、学校で子供らしさが発揮できているか、自分を主張することができるのか、子供たちをのびのびさせてあげたい。（木下委員）
- ・下校時旗振りボランティアの方と子供がタッチしていた。温かい町であることを感じる。親でない先生や地域の人ひと声が子供を成長させている。（猿田委員）
- ・コロナのため、せっかくやってきた活動ができなくなっている。3年間もやっていないので、引き継いでいけなくなってしまうのが心配。（瀧委員）
- ・SWOT分析には「通学が大変」と書いたが、それは荷物が重いことから。問題抽出の後のアクトをどうやっていくかが大切。（佐藤委員）
- ・4年間自治会長をしているが、小学校の役員さんと話をする機会はほとんどない。資源回

収もどんどん減っている。PTA と自治会の交流が大切。お互いの足りないところを補助するようにやるのがよい。(渡邊委員)

・地域のよいところ、いろんな人とコミュニケーションがとれるところを生かしていく。(齋藤委員)

・学校内部の学習に関する課題も多いが学校としてはどうか(堀内委員)

・授業の中で身につけさせる授業改善をと思っている。自分に合ったの学習の方法を考える。他との対話を重視することを主軸に授業改善していく。(校長)

・バザーがないので家庭でためている物品が増えてきた。地域やPTA 役員とのつながりもできなくなっている。(鈴木委員)

・最近古紙回収場所などが増えているので回収される資源が減ってしまう。声掛けをしたい。(瀧委員)

・資源回収が何に生きているのかよく見えないのではないか。(岡安委員)

・お金の流れや用途を説明するとよい。(鈴木委員)

・以前にパワーポイントで用途について説明したことがある。目標があるとよい。(木下委員)

・子供に資源回収について考えてもらうのもよい。(岡安委員)

・子供がいない家にも知らせていくとよい。(鈴木委員)

・150 周年をめざしてという目標になるか(堀内委員)

・子供会をやっていた人が自治会長になっているので、自治会に相談するとよい。(渡邊委員)

～子供たちの主体的な活動を全校児童に広める内容の紹介～

クローバー委員会児童2名により、映像を交えた「いきいきプロジェクト」の紹介がされた。学校をよりよくするために自分たちで活動すること(クイズ、あいさつ運動、なぞ解きなど)を企画したとのことであった。

(2) ボランティア活動について

学校支援コーディネーターより、令和4年度の「学校支援コーディネーター」の活動について説明があった。学校・教職員のニーズへの対応・調整をしているとのこと。また、検討課題として、今後のボランティア体制・地域への要請・コミュニティスクール取組みの広報・学校支援の仕組みについての4点が示された。

その他報告事項等

司会から、次回の会議は、令和5年2月14日を予定している旨の報告があった。